

AMDA

多様性の共存 ジャーナル

認定 特定非営利活動法人AMDA (AMDA)
<http://amda.or.jp/>
 特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
<http://www.amda-minds.org/>
 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター
<http://amda-imic.com/>

被災者の多くが女性と 子どもたち



病院に搬送された子どもに声をかける
AMDA 岩本看護師

9月27日にAMDA本部から看護師を、パロチスタン州に隣接するカラチ(Karachi)に派遣し、28日からカラチ市内を拠点に、現地協力団体NRSPと合流し、地震の被害を把握と支援ニーズの聞き取り調査や、病院の視察を行いました。

29日に訪れた国立ジナ病院では約60人の被災者が着の身着のままトラックなどに乗り来院していました。地震が発生した間に男性は外出しており、家に居たのは女性や子どもだったので、家屋の下敷きになったことによる外傷を伴う女性や子供の患者が多く見られました。

パキスタン・タッタ県洪水フォローアップ活動

2010年7月に発生したパキスタン・タッタ県での洪水被害に対する医療



ミシンを受け取った女性たち

2013年10月25日 VOL.36 第267号 定価550円
 発行/AMDA 〒700-0013 岡山市北区伊福町3-31-1
 TEL 086-252-7700 FAX 086-252-7717
 E-mail:member@amda.or.jp
 郵便振替:01250-2-40709 口座名:特定非営利活動法人AMDA

2013年
秋号

秋

救える命があればどこへでも

パキスタン南西部地震緊急医療支援活動

2013年9月24日にパキスタン南西部バルochistan州(Baluchistan)で発生したマグニチュード7.7(米地質調査所:USGS発表)の地震で、現地協力機関であるNRSP(※)の初期調査によると、バルochistan州アラワーン県で530人のほか、周辺の県をあわせて、少なくとも574人の死亡と、632人の負傷が報告されました。この数には瓦礫の下にいる人々は含まれておらず、今後も増えると予想されました(10月4日時点)。このような状況を受け、AMDAは現地協力機関と共に緊急医療支援活動を実施しました。

(※) NRSP: 1991年設立、パキスタン・イスラマバードに本部をおくNPO。活動は、パキスタン全土の54の地域に広がる。僻地の地元住民の能力開発による貧困対策を目的とし、マイクロクレジットなどの活動を行っている。

ました。症状としては四肢の骨折や脊椎の損傷、内臓損傷が多く、病院に来ている被災患者の中には地震で家族を亡くした人も多くおられました。特に家族を失った子どもの精神的ダメージは大きいものでした。また、同日訪問した私立のアガハーン病院では、市民病院から2人の重症患者が搬送されてきました。うち一人は、複雑骨折により搬送されてきたものの意識があり、AMDA看護師に対して「わざわざ日本からありがとうございます。自分たちが忘れられていないと思うと嬉しい」と語ってくれました。

アジア相互扶助緊急救援ネットワークの稼働

病院では患者と付添者に無料で水や食糧を提供していましたが、今後さらに必要であることから、AMDAは国立ジナ病院へ飲料水を寄贈することに決定しました。また、多くの家屋が崩壊し、被災者の住居が不足していることから、NRSPを通じてアワラン地区などに竹製の仮設テント約2400個を寄贈すること

を決定しました。

地震があった地域は、治安上の問題から同国人も入域に危険を感じるという地域。今回の活動では、パキスタン・イスラマバードに本部を置き、国内54の地域で活動を行っているNPO・NRSPの協力により、迅速かつ安全に活動を行うことができました。同団体は4月にAMDAが主催したアジア相互扶助緊急救援ネットワーク会議に参加した、ネットワークの構成団体。ネットワークの稼働が、実際の災害現場での迅速な支援活動を可能にしています。

■派遣者:岩本智子

AMDA職員、看護師(米国ライセンス)



したいと念願し続け、今日こうしてミシンをいただくことができ、その夢が叶いました」と喜びの声が聞かれました。

この2010年に発生したタッタ県での緊急医療支援活動では、約2ヶ月に渡りAMDA多国籍医療チームを派遣し、NRSPの協力のもと、巡回診療を実施しました。その結果、約5,000人の患者を診療することができました。

事前準備から出発まで

今年で3年目を迎えたおかやま国際塾の3期生が8月21日から28日の日程で、スリランカでの海外研修を終え、帰国しました。

6月16日に行われた開講式から出発までの約2か月弱、3名の国際塾生が主体となり、AMDAスタッフのアドバイスを受けながら、現地との調整、英語でのプレゼン、衛生教育の準備、スリランカと日本の関係、歴史についての学習を事前に行いました。事前準備は海外研修の内容を左右する重要な過程であり、これも国内研修の一部です。

いざ海外研修・スリランカへ

8月21日に岡山空港から出発した3名は、翌日22日にスリランカに到着しました。

滞在中は、スリランカ国立病院の見学、コロンボ大学医学部の訪問などを経ました。また、スリランカのNGOサルボダヤの事務所訪問では、自分たちのメッセージを込めた“スリランカと日本のかけ橋”というプレゼンを英語で行いました。また、幅広い年齢

層の障害者が居住する支援学校を訪れ、学生20人を対象に、コロンボ大学生に通訳の助けをかりて、歯磨きと手洗いの衛生指導や、折り紙を使った交流をしました。

さらに研修期間中に、同国で開催されていた「AMDA・Religions for Peace 合同平和構築プログラム」にも参加し、異なる民族、宗教、言語の現地中学生と日本から参加した中高生と共に、それぞれスポーツ、文化などの交流を楽しみました。

この海外での研修を通じて、平和の



スリランカの学生たち

大切さや同世代交流の素晴らしさを感じ、さらに「できなかった」ことを克服しようとする前向きさが見られました。今後は報告会を予定しています。

AMDA・Religions for Peace 合同平和構築プログラム

2013年8月23日から25日の日程で、スポーツ、宗教、文化の交流プログラムを「AMDA Religions for Peace 合同平和構築プログラム」としてスリランカのコロンボで実施しました。これは文化交流やスポーツを行うことを通じて、異なる民族や宗教間での相互理解を深めるためのものです。2004年に開始したスリランカ医療和平事業(Peace Building Project)のパート2として、2011年に開始し、今年で3回目。今年は初めての試みとして、日本から佼成学園の中学生20人も参加し地元コロンボにある7つの学校から4つの宗教(仏教、イスラム教、ヒンズー教、キリスト教)の学生が参加しました。



混合チームでサッカーをする中学生たち

おかやま国際塾1期生からの喜びの報告

2011年からスタートしたおかやま国際塾の第1期生として参加した2人の学生さんが、第1希望先に就職内定という喜びの報告に事務局を訪れてくれました。おかやま国際塾での経験がどのようにいかされたのでしょうか?

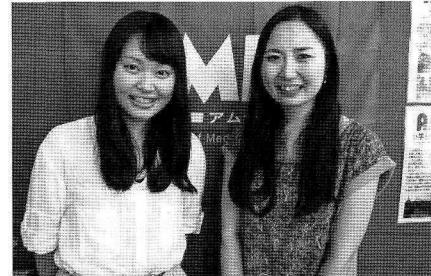
国際塾1期生 柳浦 瞳美

岡山大学法学部4回生

私は、2回生の時に「おかやま国際塾」に参加し、未知の世界へ踏み出すこと、そして多くの人々と出会うことの素晴らしさを心から実感しました。そして、この活動を通じて肌で感じたことは、「大きな困難にぶつかっても、信頼し合える仲間と共に実現に向けて自分の足で一步踏み出すことで、その困難は自分を成長させる素晴らしい財産になる」ということです。このように感じることができたのは、AMDAの方々やモンゴルで関わった方々に「信頼関係構築力」、「思いを行動に移す実行力」の大切さを教えて頂いたからこそだと思います。また、様々な世界を知り、多くの事を学んだことで、自分の将来の道を見つけることができました。「人と土地

との出会い」を仕事とする「旅行業界」に魅力を感じ、就職活動を経て旅行会社から内々定を頂くことができました。社会に出ても、おかやま国際塾で学んだことを胸に、人と人との繋がりを大切にし、新しい世界に挑戦し続けていきたいと思います。

菅波代表を始め、AMDAの方々に出会い、貴重な経験ができたことを誇りに思います。これまで関わった全ての方に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

**国際塾1期生 秀川佳苗**

岡山大学法学部4回生

「おかやま国際塾」への参加が、それ以後の大学生活を大きく変えました。ここで鍛えて頂いた①実践力、②目的設定力、③信頼関係構築力のおかげで、想いを形にする経験が出来ただけでなく、自分の将来の道筋をも立てることも出来ました。まず、動き出し、そのプロセスの中で、壁にぶつかりながらも周囲の方々と協力し、ひとつずつ課題をクリアしていくという、社会に出て必ず必要となる基礎能力を大学2年という早い段階で経験させて頂き、その苦しさと同時に楽しさを知ったことは私の財産だと思います。素晴らしい場を提供して下さり、本当にありがとうございました。

← 写真左から秀川さん、柳浦さん

東日本大震災復興支援活動

岡山の大学生が被災地でボランティア活動

8月24日から27日までの日程で「東日本大震災復興支援ボランティア活動」が開催され、岡山県内の大学生40人と、県内の企業や大学関係者総勢約60人が宮城県石巻市雄勝町と岩手県大槌町でのボランティア活動を行いました。これは岡山経済同友会と大学コンソーシアム岡山主催の活動で、今年で3回目となります。被災地での受け入れ、コーディネートをAMDAが担当しています。

宮城県石巻市雄勝町では廃校の再生プロジェクトとして清掃活動やワカメ天日干しをするための作業場の草抜き



雄勝町での廃校再生ボランティア活動を終えた参加者全員で

を行いました。思いがけず、地元の方からのねぎらいの言葉とともに手作りの郷土料理などもふるまわれる、にぎやかなひと時となりました。さらに岩手県上閉伊郡大槌町に移動した一行は、

地元の方々との意見交換や雨の中での清掃活動を行いました。学生からは「多くのことを感じ、考える機会になった」との感想が聞かれ、次世代を担う学生の、貴重な体験の場となりました。

第3回サッカー親善交流事業を開催しました！



参加者全員で記念撮影

2013年8月11日（日）、気仙沼市立津谷中学校のグラウンドを会場に復興支援第3回目となるサッカー親善交流事業を実施しました。

これは、「求心力のあるスポーツ・サッカー」を通じて行う交流が、被災地の復興への力になるとを考え、第1回とし

て2011年8月には、被災地3校の中学生を岡山に招へいし、岡山の中学生とサッカーを通じた同世代交流を実現しました。そして、第2回目は同世代交流と被災地間交流というコンセプトを合わせ、宮城県気仙沼市立津谷中学校のグラウンドを会場に2012年11月に開催しました。

第3回の開催当日には朝、ゲリラ豪雨が降り、グラウンドの水抜きが急きよ入ったため、開催が30分遅れましたが、その後、天候にも恵まれ、子どもたちの笑顔があふれました。

参加校は大槌町立大槌中学校、気仙沼市立氣仙沼中学校、気仙沼市立津谷中学校、南三陸町立志津川中学校の4

校のサッカー部の学生と引率の教諭らで学校を超えた交流がスムーズにできるよう、混合チームを作成し試合を行いました。はじめのうちは、ぎこちない様子でしたが、ボールを追いかけプレイをすることで、すぐに打ち解け、多感な時期である中学生たちの交流だからこそ感じる絆やエネルギーに、世代を超えて感動が生まれました。

AMDA 大槌 健康サポートセンターだより



親子でつくる天然酵母パン教室

仮事務所での活動から、もうすぐ半年が過ぎようとしています。地域の方のニーズを反映させながら体操教室、[redacted]教室、手芸教室、託児付きのママヨガ教室、フライパンとポリ袋で作る天然酵母パン教室などを実施しています。さらに、キャラ弁サークルなどの企画もスタートしています。

大槌健康サポートセンターの電話番号が変わりました。

TEL・FAX 兼用
0193-55-5421

中学生（岡山市立吉備中学校）が被災地視察



大槌中学校で校長先生にお話を聞く吉備中学生たち

2013年7月22日から26日の日程で、吉備中学生5名が宮城県、岩手県の被災地を訪れました。これは、吉備学区連合町内会が主催となって行われたもので、現地での受け入れ調整をAMDAが担当しました。

緊急医療支援期に、AMDA調整員と

して活動した西村輝氏が、中学生の引率を行い、宮城県石巻市雄勝町と岩手県上閉伊郡大槌町を中心に視察やボランティア活動を行いました。雄勝町では、雄勝中学生との交流や雄勝診療所での肩もみボランティア、漁師の作業手伝いました。また大槌町では、大槌中学校を訪れ、校長先生のお話を伺いました。

参加した中学生からは「自分たちにできることは募金ぐらいしかないとと思っていたので、こういう機会があって、すぐに応募しました。現地に行けて本当によかったです。」との声が聞かれました。

AMDA-仙台夜まわりグループ共催のお知らせ

食糧と人道支援シンポジウム「東日本大震災を通して見えたもの」

【日時】2013年11月2日（土）10:00 開会 【会場】岡山国際交流センター 5F会議室1

東日本大震災復興支援活動

第3回復興グルメF-1大会を開催しました！

2013年7月21日に第3回目となる復興グルメF-1大会が石巻市おしかのれん街で開催され、3県8地域12チームがエントリーし、これまでで最大規模の約3,000人の方に来場いただきました。

開催前は出店者の方々から「こんなに遠くまで、お客様来るのかな?」と不安の声も聞かれましたが、開催直後よりチケット売り場や各テントには、全国から訪れた方々で長蛇の列ができ、開始2時間で完売続出となるにぎわいになりました。

来場者の方々からは、「美味しい!楽しい!感動した!」「東北の各地の人と交流できて嬉しい」と、出店者の方々からは、「みんなが美味しいと言って、

フライパンで作る天然酵母パン作り講師の養成講座 in 雄勝町

石巻市雄勝町では「フライパンで作る天然酵母パン作り講師の養成講座が9月5日からスタートしました。参加者12名が講師を目指して全12回を受講しています。



表彰式後に参加者全員で

笑顔になる姿を見て励みになった」「他の商店街さんと関わって勉強になった」などの声を聞くことができました。

それぞれの入賞者が発表されるたびに歓声が湧き、優勝はおしかのれん街の「おしかモビードッグ」が選ばされました。他のチームの入賞を、参加チーム全員が讃える姿に、その場にいた皆が感動し、本大会の意義を感じた瞬間でした。

今回、福島県からの初参加となったTEAM 南相馬は、風評被害という問題が根強い中、不安を抱えながらの参加でした。しかしテントの前には行列が絶えず、2位に入賞する健闘で、福島県の多くの人に勇気と希望を届けられたようです。

被災地間相互交流事業 第1回仮設商店街による情報共有会開催



積極的な意見交換が行われた

9月10日、気仙沼中央公民館を会場に『第1回 仮設商店街による情報共有会』を開催しました。「復興グルメF-1大会」の参加者からの「今後の本設に向けての計画及び情報交換などを行いたい。」という声に応え、開催に至りました。岩手、宮城の仮設商店街9ヶ所から20名が参加。4つの仮設商店街の代表者によるプレゼンテーションの後、今後の商店街の在り方や、現在抱えている問題などについて、参加者による活発な意見交換が行われました。今後も定期的な情報共有会を開催していく予定です。

被災地医療機関支援 夏季医療ボランティア派遣



南三陸診療所の皆さんと
写真中央・福吉看護師

被災地医療機関支援として、AMDAでは宮城県南三陸町の公立立津川病院および南三陸診療所に対して、春季、夏季、冬季の地元医療スタッフが長期休暇を取る時期に、地元医療スタッフの負担を軽減すべく、2011年の夏季から医療ボランティアを派遣しています。

今回は、3年目の夏季派遣として、8月4日から9月7日までの期間に、医師1名、看護師3名の計4名を派遣しました。

次回は冬季派遣を予定しています。

【夏季医療派遣者 プロフィール】

- 山河 城春（やまかわ しろはる）：看護師／埼玉県在住（8/4～9）
- 山崎 希（やまざき のぞみ）：看護師／岡山県在住（8/8～15）
- 福吉 恵子（ふくよしけいこ）：看護師／広島県在住（8/14～19）
- 鮫島 光博（さめじま みつひろ）：医師／東京都在住（9/1～7）

災害鍼灸チーム育成プログラム開催



雄勝町で吉田針灸師による鍼灸治療の様子を見学

AMDAでは東日本大震災の緊急医療支援期（2011年3月、4月）に、鍼灸治療を取り入れて支援活動を行っていました。その際の鍼灸治療のニーズは非常に高く、また得られる効果も高く、被災地における鍼灸治療の必要性を確信しました。現在も被災地の健康支援として岩手県大槌町、宮城県石巻市雄

勝町で鍼灸治療を実施しています。

そこで、今後来る災害に備えて、災害鍼灸チームの育成講座を開催することを決定し、7月30日、31日の2日間で実施しました。4名の鍼灸師の方々が全国から参加し、被災地での医療の現状、災害時の鍼灸治療の必要性や、在り方などの講義を受けたほか、実際の鍼灸治療活動の様子を見学しました。参加者からは「被災地で鍼灸が役に立つことが、今回の研修を通して良く分かった。まだ課題が多いが、将来的に、鍼灸師のチームを確立させて、実際の災害現場で活動できるといい。」と感想があがりました。

今後も定期的に開催する予定でいます。

フィリピンルソン島台風洪水 緊急医療支援活動



支援物資を配布する AMDA 医療スタッフ

フィリピン北部・首都マニラのあるルソン島で、台風と季節風の影響により、2013年8月17日から20日にかけて大雨が続き、洪水被害が発生しました。死者25名、負傷者30名、行方不明者3名、被害地域は18州37市155自治体にのぼり、被災者数は292万9766名を数えました。(フィリピン国家災害対策本部発表)

この被害状況を受け、AMDA本部は

フィリピン軍(the Armed Force of Philippines)と協働で、緊急医療支援を行うことを決定し、8月24日に看護師1名、調整員1名を派遣しました。

洪水被害が大きく、浸水状態が続いているブラカン(Bulakan)州ハゴノイ(Hagonoy)市タンポック(Tampok)村の教会で、無料診療を実施し、のべ210人を診察しました。主な疾患としては、風邪などの上気道感染、皮膚疾患などで、必要に応じて医薬品を処方しました。また、タンポック村を含む4つの村で支援物資の配布も行いました。支援物資としては、米2キロ、ペットボトルの水2本、缶詰3個、インスタント袋麺、インスタントカップ麺、クラッカー各1個、インスタントコーヒー(5杯分)を一袋とし1009名分を、フィリピン軍や地元の団体の協力をえて配布しました。

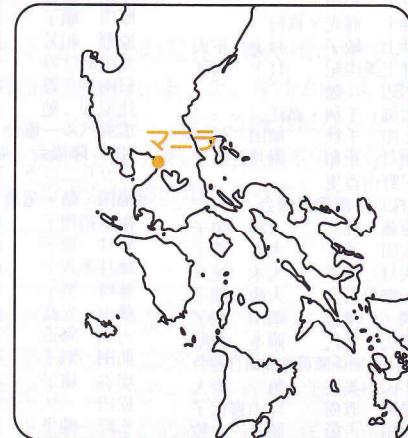
住民からは、「こんなにたくさんの支

援物資をもらったのははじめて」「早く子供に食べさせたい」「医療支援は初めて行われた。本当にありがとう」と感謝の言葉が聞かれました。

■派遣者

山崎 希: AMDA職員、看護師

古谷 ミラソル: 調整員、岡山倉敷フィリーノサークル所属



山口・島根豪雨被害に対する AMDA・総社市合同緊急支援活動



総社市役所を出発した合同支援チーム

2013年7月28日に山口県北西部および島根県南東部を襲った豪雨で、降り始めからの雨量は午後7時までに島根県津和野町で381ミリ、吉賀町で236.5ミリ、益田市で73.5ミリとなり、県内を流れる川は一気に増水し、土砂災害や川の氾濫が相次ぎました。住宅の浸水被害も多く、さらに各地で道路

が寸断されたほか、一部では線路も流されるなど、甚大な被害が発生しました。

甚大な被害を受けた地域のうち、山口県山口市と島根県津和野町は、岡山県総社市とゆかりが深く、また総社市はAMDAグループとの多文化共生に関する協定を締結していることから、この2つの地域の被災者に対して、総社市とAMDAの合同緊急支援活動の実施が決定。AMDAからは看護師1名を派遣し、支援物資として経口補水液、大人用紙おむつ、頭痛薬、総合風邪薬、外傷用軟膏、湿布薬、下着などを用意しました。

30日に総社市役所を出発した合同支援チームは、同日、陸路で山口市阿東総合支所と島根県津和野町役場に支援物資を届けました。支所の方からは、「遠方の方からわざわざ物資を届けてください、ありがとうございました。使わせていただきます」という言葉をいただき、発生から初期の段階での支援物資到着と、チームの訪問を歓迎してくださいました。

なお、AMDAと総社市との合同緊急支援活動は、2011年1月ブルジルリオデネイロ洪水、2011年3月東日本大震災に続き3例目となりました。

感謝のお手紙をいただきました

島根県津和野町 下森博之町長、山口県山口市渡辺純忠市長より、今回の合同支援活動に対して、それぞれから感謝のお手紙をいただきました。

譲り受けたお手紙の一部

譲り受けたお手紙の一部

譲り受けたお手紙の一部

譲り受けたお手紙の一部

■派遣者: 岩本 智子、AMDA職員、看護師(米国ライセンス)

AMDA、岡山県立大学、総社市三者連携協定の締結



写真左から菅波代表、辻学長、片岡市長、渡邊市議長

2013年9月10日、総社市役所にて、AMDAと岡山県立大学と総社市の「世界の命を救う」協定が締結されました。

三者が協力、連携し、災害支援、地域振興、教育・人材育成、福祉の分野で、それぞれの得意分野を生かした「世界の命を救う」活動を行うものです。主な連携協力事業は、南海トラフ大震災に対応するための3者連携プログラムの策定や災害支援活動、地域振興事業、教育・人材育成推進事業、福祉事業など。これらを基本的な柱とし、より具体的なプログラムを実践していく予定です。

〈講演〉			
7月9日	ボランティアに参加するにあたってのマナー	岡山県立興陽高等学校	
7月14日	平成25年度 育友会 懇親会「社会貢献のあり方」	岡山中学校高等学校 育友会	
7月16日	平成25年度 第1回小講演会「東北震災支援活動について」	岡山県立岡山芳泉高等学校	
7月22日	平成25年度 四国教区装具研修会 災害時での心構え、準備、行動について	天台宗四国教区	
7月23日	岡山北ロータリー・クラブ例会 卓話時間	岡山北ロータリークラブ	
7月27日	平成25年度釜石公民館 わんぱく広場 ポリ袋で作る天然酵母パン（大槌パン教室）	釜石市立釜石公民館	
7月29日	親子 de AMDA 「AMDAのつどい」	おかやまコープ美作エリア委員会	
8月2日	第63回広島県公立中学校長研究大会福山大会 記念講演	広島県公立中学校長会	
8月6日	玉野市教育研究所道徳部会 第一回研修会 AMDAの国際貢献・国際理解について	玉野市教育委員会 教育研究所道徳部会	
8月7日	夏期人権教育研修会「人権とは何か」について	岡山県健康の森学園支援学校	
8月21日	これまでの医療活動について	メディカ大阪	
8月28日	人権教育講演会 人道支援外交	倉敷市下津井公民館	
8月28日	「国際看護」諸外国における保健・医療の状況、国際協力について	岡山県立真庭高等学校	
9月6日	地域国際化推進研修会 国際協力、国際交流及び国際理解教育について	公益財団法人 大分県芸術文化スポーツ振興財団	
9月7日	山陽看護学会集会 グローバル社会における看護の役割	山陽看護学会	
9月7日	「災害看護」被災地での看護の役割	岡山県立真庭高等学校	
9月13日	定例会 卓話	茅ヶ崎中央ロータリークラブ	
9月14日	地区奉仕プロジェクトセミナー「AMDAの現在の活動と世界が求める人道支援」	国際ロータリー第2780地区 奉仕プロジェクト委員会	
9月22日	「もっと知ろう！E S D」～トーク＆チャリティーコンサート～ トークライブ	山陽放送株式会社	
9月24日	平和活動学習会「パングラディッシュってどんな国？AMDAさんに聞いてみよう」	おかやまコープ岡山東エリアくらし応援委員会操南	
9月27日	備前ロータリークラブ 例会「AMDAについて」	備前ロータリークラブ	
9月27日	社会人講師活用事業 「国際看護」	岡山県立倉敷中央高等学校	
〈大学講義〉			
7月16日	学生生活概論（人文科学部・教育学部授業）「ボランティア活動」	就実大学	
9/5・9/7・9/12・9/19・9/26	災害看護（系統看護学講座・統合分野）	相生看護専門学校	
9月7日・9日・10日	保健福祉学研究科「災害医療援助特論」	岡山県立大学大学院	
〈イベント〉			
7月7日	第311回備前岡山京橋朝市 AMDA のとろだっくサテー出店参加		
7月20日	AMDA フードプログラム：フィールド見学・新庄村のとろタル祭り		
7月21日	第3回『復興グルメ F-1大会 ～集まろう！伝えよう！つながろう東北！～』（主催：おしかれん街・氣仙沼復興商店街南町紫市場・AMDA）		
7月30日・31日	災害看護チーム育成プログラム		
8月10日	チャリティーコンサート パク・ジュニョン「Summer LIVE 2013」		
8月11日	AMDA 東日本大震災被災地間サッカー親善プログラム		
8/21～29	第3回アムダ国際塾（スリランカ）		
9月7日	第10回災害セミナー開催 被災地を忘れない—被災地の地域医療と災害鍼灸—（岡山県立大学大学院「災害医療援助特論」公開講座 協力：AMDA）		
9月21日	AMDA－VSCO 合同シンポジウム「女性の人権と相互扶助～自尊心を取り戻すためには～」（共催：公益社団法人サポートセンターおかやま（VSCO）・AMDA）		
9月28日	AMDA フードプログラム AMDA 野土路農場（新庄村）収穫祭		
〈AMDA高校生会活動〉			
7/15・8/10・9/8	AMDA高校生 定例会		
7月25日・26日	国際ソロブチミスト日本西リジョンユースフォーラム（於：丸亀市） 参加		
7月28日	AMDA高校生会 活動報告会		
8/24～27	東日本大震災復興ボランティア 参加		
8月25日	高校生イニシアティブ防災理解教育フォーラム&臺さんとの交流会 参加（主催：岡山西南ロータリークラブ）		
〈インターン〉			
7月1日（月）～5日（金）	"東邦大学(総合実習 国際看護学) 看護学部看護学科 4年生 勝又 望"	アムダ野土路農場	9月18日（水）～20日（金）
7月～	"岡山大学法学部法学科3年 竹内 裕美"	職場体験受入	新庄村中学校 生徒（2名）

— sogo・fuyo — AMDA ジャーナル 2013.10

AMDA フードプログラム

「食は命の源」をコンセプトにアジアに有機農業を啓蒙・普及することを目的とするAMDA フードプログラム。本年度は、無農薬、有機栽培での米作り、野菜作りの実践に併せて、技術指導のためインドネシアからの研修生2名を受け入れました。

収穫祭の開催

9月28日に開催されたAMDA 野土路(のとろ)農場の収穫祭に、インドネシア領事館から領事ご夫妻が、新庄村からは村長、議長をはじめ村議の皆様にもご参加いただき、AMDA の支援者の方など約60人が参加。稲刈り、はで干し体験やバーベキューなどを楽しみました。



みんなで一緒に収穫体験(写真左からデンラさん、スギアント領事、笹野村長、イカワティさん)

研修生の報告会: 約半年の研修が終了



研修生による報告の様子

新庄村公民館でインドネシア研修生による研修報告会が9月30日に行われました。村民の方々など約40人が集まる中、2名の研修生が活動報告を行いました。

4月の土づくりから始まり、収穫まで

を体験した2名は、「まずは堆肥づくりから始めて、早く実践したい。稲作だけでなく、野菜作りもしたい。美味しい農産物をマリノ村の人たちに食べさせたい。AMDAスタッフだけでなく、新庄村の皆さんにお世話になり、有機農業だけでなく、思いやりの心など、たくさんことを教えていただいた。ほんとうにありがとうございました。」と話しました。研修生2名は10月2日で研修を終え、帰国の途につきました。今後はインドネシアスマラウェシ島で彼女たちが指導者となり、有機農業をスタートさせます。

のどろのどろまい 野土路ダック・野土路米取扱いのお店紹介

2013年度の収穫が終わり、11月にはAMDA 野土路(のとろ)農場産の新米をお買い求めいただけます。農薬を一切使わず、源流の水で、アヒル農法で作った美味しいお米です。ぜひ一度ご賞味ください。ひめのもち米も好評です。

AMDA 野土路米を購入できるお店(50音順)

株式会社 晴富 オンラインショップもしくはカタログで注文 <http://www.harutomi.co.jp/>
【TEL】086-293-1711

ハルミの種 オンラインショップで注文 <http://www.harumi-tane.tv/>

AMDA 野土路ダック料理が食べられるお店(50音順)

トラットリアミズオチ	岡山市北区内山下1丁目3-3 【TEL】086-234-1122
晴れ国ダイニング・プロポスター	岡山市北区丸の内2丁目12-27(11月22日より) 【TEL】086-235-1377
日本料理・きこにあ	岡山市北区新屋敷町1丁目10-22 【TEL】086-245-1122
リストランテ収穫月(みのりづき)	倉敷市中島2407-112 【TEL】086-466-7022

多くの方々からご寄付をいただきました。一部を紹介します。



ジュニアインターンシップ インターン紹介



岡山大学法学部3回生 竹内裕美

私は大学で国際法のゼミに所属しており、担当教官である黒神先生のご紹介でAMDAで働かせてもらっています。私のような一学生を快く受け入れていただき大変恐縮です。

国連に認められたNGOであるAMDAで働かせてもらることは私にとって非常に貴重な経験であり、インターン生として吸収できることをすべて吸収していきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

おしらせ

AMDA 鎌倉クラブ主催 チャリティーコンサート VOL.15 一糸II 東日本大震災復興支援

【日時】

2013年12月1日(日) 14:00 開演

【会場】

鎌倉芸術館 小ホール

【出演】

沢木順、白澤みさき、崔宗宝、根津章伶、箏曲絃伶会、渡辺光ほか

【問い合わせ】 AMDA 鎌倉クラブ

TEL: 0467-24-2969

AMDA鎌倉クラブ チャリティコンサート Vol.15

東日本大震災復興支援

